

すくも自主防災会だより 第29号

●防災講演会 in 宿毛の開催について

12月14日(土)、幡多地区自主防災会連絡協議会の主催により、防災講演会 in 宿毛が開催されました。休日にも関わらず市内外から参加いただいた皆さん、また高知市からお越しいただいた高知大学 原教授、高知県危機管理部の2名の講師に心から感謝いたします。非常に素晴らしい講演でありましたので感想を含めて、本コーナーに掲載させていただきます。



●第1部 「巨大災害の教訓～災害から身を守り生き抜くヒント～」

講師 高知大学 防災推進センター 副センター長 原忠教授
自助・共助の重要性についてご講演いただきました。特に印象に残っているものとして、

「自助の精神の無いところに共助の仕組みは存在しない」

「自助、共助の仕組みの無いところに投入される公助に持続性がない」

の2つの言葉がありました。

防災の分野では、「自助・共助・公助」が必要であり、その割合は「7対2対1」であることはよく言われますが、原教授の言葉はこのことを率直に表しており、参加者の心に深く突き刺さったのではないかと思います。一昨年発生した7月豪雨においては、宿毛市内の自主防災組織においても、独自に避難所を開設したり、避難を呼びかけたりと活躍した組織があった半面、何もできなかった組織もありました。



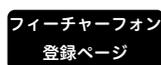
昨今の相次ぐ豪雨災害や今後想定される南海トラフ地震など、こういう時代だからこそ、我々市民も「自分の命は自分で守る」意識の徹底に努めるべきではないでしょうか。そして、自助を補うために共助の精神を醸成するべきではないでしょうか。まずは、「台風接近の情報があれば、アンテナを高くし備える」「雨が強くなれば、危険度を判断して避難する」こういった一人一人ができる基本的な事に努めなければならないと、改めて感じた講演でありました。

●第2部 「南海トラフ地震の臨時情報」 講師 高知県危機管理部

これは、南海トラフの東半分で大きな地震が起こるなど、南海トラフ地震の予兆となる兆候があった場合に気象庁から発表される情報で、情報を生かして減災に繋げようというものです。非常に有効な情報であると思いますが、臨時情報が発表されても、必ず南海トラフ地震が発生するとは限らず、臨時情報の発表がなく地震が起こることもあります。臨時情報を正しく理解し、適切に対応するとともに、地震は突発的に発生するものとして、対策を講じることの大切さを感じました。

●宿毛市防災アプリ

災害情報を得る上で宿毛市防災アプリは非常に有効な手段だと思っておりますので、登録がお済でない方は、ぜひご登録をお願いします。



「すくも自主防災会だより」は各自主防災会の取組事例を共有することで、市内の共助の力を高めていこうとするものです。それぞれの地域において、掲載したい取組事例等があれば、事務局までお願いします。

※これまでの掲載内容は、宿毛市ホームページ (<http://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-30/17266.html>) から確認いただけますので、ぜひご覧ください。



宿毛市自主防災会連絡協議会 会長 濱田 頼之

問 危機管理課 ☎ 63-0951